栃木県埋蔵文化財センターだより

発行　平成 29 年 1 月 10 日
栃木県教育委員会
宇都宮市塙田 1 ー 1 ー20
電話　028-623-3425
編集（公財）とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫 4 7 4
TEL 0285-44-8441〔日曜日〕（代表）
0285-43-1971〔月～金〕（資料普及課）
FAX 0285-44-8445
URL http://www.maibun.or.jp

2017
1月

CONTENTS

○特集　旧石器時代―埋蔵文化財センター常設展示室から―
○埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から
　粟宮宮内遺跡
○市町教育委員会等が実施した発掘調査から
　箕輪城跡（下野市）
　中根八幡遺跡（中根八幡遺跡学術発掘調査団）
○まほろん 15 周年体験フェスタに参加しました！
○まいぶん専門職員の いま気になるモノ
○宇都宮市立南図書館で展示を行いました！
○平成 28 年度 栃木県内の埋蔵文化財イベント一覧（1 月～3 月）

とちぎ発掘イッピン図鑑

「いい仕事してますね～」実は骨壺なんです

灰釉陶器の蓋付短頸壺（平安時代）

緑色の釉が美しいこの焼き物は、９ 世紀の前半に愛知県の猿投窯で焼かれた、当時の高級陶器です。寺野東遺跡（小山市）から見つかったもので、壺の中には火葬した人骨が納められていました。

形が奈良県東大寺正倉院の薬を納めた壺に似ているため、「薬壺」と呼ばれていますが、このように骨壺として使用する出土例が多く認められます。（底から蓋の先端までの高さ約 28 ㎝）

特集 旧石器時代

―埋蔵文化財センター常設展示室から―

自然環境

旧石器時代には、火山が頻繁に爆発し、火山灰が降り積もりました。関東地方の台地上にある関東ローム層（赤土）は、この時に積もった火山灰と言われています。

涼しく、乾燥した気候で、草原、疎林（背丈の低い木がまばらに生えた林）もしくは針葉樹に覆われていたことが、地中に残った植物花粉の化石から分かっています。

寒い気候では、北極や南極、高い山の氷の量が増え、地球上の水が少なくなり、海水面が低下します。間宮海峡や津軽海峡が陸となり、日本海が氷に覆われて、大陸からナウマンゾウやオオツノジカなど今は絶滅してしまった種類を含む動物が渡ってきました。

高原山の自然

旧石器時代には、このような光景が
各地に広がっていたと考えられます

くらし

住まい（キャンプ）

旧石器時代の遺跡を発掘調査すると、１か所から石の破片がまとまって発見されます。石器の製作所、すなわち短期間生活をしたキャンプ地と考えられています。

このような石の破片のまとまりが、輪の形に並んでいることもあります。佐野市上林遺跡のものは、50m×80mにおよび、国内最大級です。複数の家族が集まった跡と考えられます。

西刑部

上林遺跡
佐野市

狩猟具

日本列島の旧石器時代の主な石器は、ナイフ形石器、尖頭器、細石刃の順で移りかわりました。これらは、柄に付けて槍や投げ槍として、狩りに使ったと考えられています。

西刑部西原遺跡（宇都宮市）出土の石器

道具

土器出現以前の道具

土器が発明されていない旧石器時代には、石器のほか、骨角器、木器、皮製品などの道具があったと思われます。しかし、強い酸性の火山灰中では、石器以外の道具は、腐蝕してほとんど残っていません。

今から約45,000年前には、日本列島に人類が住んでいたことが分かっています。土器が登場する約16,000年前までを旧石器時代と呼びます。火山活動が活発で、現在よりも寒く乾燥していました。人々は食料や石器の材料を求めて、移動しながら生活していたと思われます。

西原遺跡のキャンプ跡

のキャンプ復元イラスト
教育委員会提供

狩猟

旧石器時代には、槍や投げ槍を用いて狩りをしていたと思われます。獲物は絶滅したナウマンゾウやオオツノジカではなく、現在も棲息するニホンジカやイノシシだったようです。

旧石器時代の遺跡から、わずかながら陥し穴が発見され、待ち伏せたり追い込んだりして獲物を獲っていたことがわかります。茂木町中根遺跡から発見された穴は、直径80㎝、深さ1.8mの大きさで、壁が垂直に掘られています。

中根遺跡（茂木町）の陥し穴
茂木町教育委員会提供

料理

旧石器時代の遺跡から、タールが付いたり、焼けて赤くなった拳大の石がまとまって発見されます。石を焼いて料理をした施設と考えられています。

三ノ谷東遺跡（下野市）
の礫群（調理施設）

掻器

剥ぎ取った石の破片の端を、細かく打ち欠いて、急角度な刃を付けた石器を掻器とよびます。獣の皮に付いた脂肪などを掻き取るための道具と考えられています。

削器

剥ぎ取った石の破片の縁を、細かく打ち欠いて、刃を付けた石器を削器とよびます。モノを薄く削り取る道具と考えられています。

石器で動物の肉を切る（削器の使用例）

敲き石

川原石などが使われ、端に細かく敲き付けた痕跡が付いています。石器作りや木の実などを砕くための石器です。

石器製作の技術

旧石器時代の人びとは、石器の材料となる石の性質をよく知っていました。割りやすいように石の形を整え、そこから同じ形の破片を連続して剥ぎ取ることができました。この破片を素材とし、刃を付けるなどの細かな加工をして、一定の形の石器を作りました。

直接打撃

間接打撃

剥ぎ取った剥片

埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から

粟宮宮内遺跡（小山市粟宮）

14 世紀（南北朝時代）の溝跡（北から撮影）

平成 27 年度から継続して県道小山環状線建設に伴う発掘調査をしています（平成 19・20 年度にも調査が行われました）。今回の調査では、中・近世の長方形土坑や地下式坑（地下室の跡）、井戸跡などを発見しました。また、遺物では、カワラケや内耳鍋（囲炉裏に吊して使用した土鍋）、中・近世の陶磁器などが出土しています。

平成 19・20 年度の調査で発見した溝跡の続きも今回改めて調査をしています。溝跡は浅い溝跡（幅約 2.8m、深さ約 1.3m）が深い溝跡（幅 6m、深さ約 2m）によって壊されています。浅い溝跡からは、14 世紀頃のロクロを使わずに作られた手びねりのカワラケが出土しています。おそらく南北朝時代の頃、この溝はまだ使われていたと考えられます。

なお、井戸跡から板碑（石製の供養塔）が発見されました。残念ながら作られた年号や供養された人物の名前などは記されていませんでした。しかし、板碑の正面中央には、阿弥陀三尊像の種字※である中央にキリーク（阿弥陀如来）、正面右にサ（観音菩薩）、正面左にサク（勢至菩薩）が刻まれています。故人へのたむけとして使われたのち、井戸に投げ込まれたようです。

※種字
仏をあらわす
梵字（記号）

板碑（供養塔）
緑泥片岩製で、長さ約
90 ㎝、幅は約 30 ㎝

先端部を下に向けた
状態で出土しました。

井戸跡と板碑の出土状況

市町教育委員会等が実施した発掘調査から

箕輪城跡（下野市箕輪）

箕輪城跡は、姿川西岸の台地上に所在する中世の城跡です。今回の調査では、城跡に関係する遺構は発見されませんでしたが、縄文時代から平安時代にかけての竪穴建物跡 27 軒のほか、土坑（穴）や井戸跡が見つかりました。

竪穴建物跡からは、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器等が出土していますが、１軒の建物から弥生土器と土師器が見つかったものがあり、古墳時代になっても、弥生土器を使い続けていることがわかりました。また、出土した弥生土器は、栃木県で作られたものの他に、茨城県・群馬県・埼玉県から運ばれてきたものが含まれており、弥生時代から古墳時代へ移り変わる時期に、広い範囲で人々の交流があったことをうかがうことができます。

また、土坑も 10 基以上見つかっていますが、そのうちの 4 基は氷を保存した氷室と考えられている円形有段遺構です。この遺構は直径 3.5 ～ 4.5m程度の円形で、深さが２～3mのとても大きなものです。『枕草子』にも記されているかき氷を、古代の下野国の人々も食べていたのでしょうか。（資料・写真提供　下野市教育委員会）

↑古墳時代竪穴建物跡の土器出土状況（上段）と出土した土器（下段）

市町教育委員会等が実施した発掘調査から

中根八幡遺跡（栃木市中根）

栃木市南部の渡良瀬遊水地に連なる湿地に面した、豊富な湧き水の上段に位置する直径約 160m の環状盛土遺構です。縄文時代後・晩期（今から約 4,000 年～3,200 年前）の祭祀の拠点となる大規模なムラの跡の一つと考えられていますが、何のために、どうやって、どのくらいの期間をかけて造られたのかなど不明な点が多く、國學院大學栃木短期大学と奈良大学が共同で学術調査を行っています。

↑環状盛土遺構の調査状況
調査では、細い調査区を土の堆積状態を確認しながら掘り下げていきます。

←小学生による
発掘体験の様子

本年度も夏休み期間中に、盛土の外側と内側の２か所に細い調査区を設け、土がどのように堆積したのか確認しながら少しずつ掘り下げていきました。両調査区の最下部では柱穴跡も見つかっています。

これまでの調査で、縄文時代中期中頃～晩期中頃（ 今から約 4,500 年～2,700 年前）の土器、チャートや黒曜石製の石鏃・石錐、打製石斧や磨製石斧、石皿、磨石、石錘などの生活に関わる道具をはじめ、土偶や耳飾、石刀の破片など多様な遺物が発見されています。

今回の発掘調査期間中には、県内の小学生を対象とした発掘体験や一般向けの説明会も開催し、多くの方にご覧いただきました。

（資料・写真提供　中根八幡遺跡学術発掘調査団）

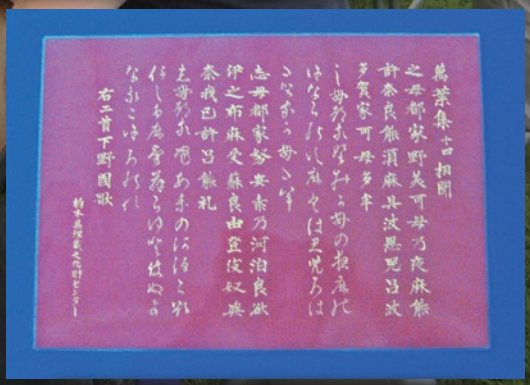
埋蔵文化財センター普及事業の紹介 Part 1

まほろん 15 周年体験フェスタに参加しました！

９月 24 日（土）・25 日（日）の両日、福島県白河市にある福島県文化財センター白河館、愛称「まほろん」の 15 周年体験フェスタに参加しました。

イベントは、24 日に参加団体による事例報告会が行われ、６団体が各館の概要や取り組みなどについて報告しました。

２５日には、北は青森県から南は佐賀県までの９施設・団体による各種体験や展示が行われました。当埋蔵文化財センターのコーナーでは、古代文字を書き写す「ランチョンマットづくり」を行いました。どの体験コーナーも大盛況で、この２日間で 781 名が来館しました。



↑古代文字を写したランチョンマット

まいぶん※専門職員のいま気になるモノ

津野　仁【整理課副主幹】

専門：古代東アジアの武器・武具などの研究で幅広く活躍

津野さん、最近気になっているモノは？

そうですね。塩谷町にある高さ約 21m の磨崖仏である佐貫石仏に関連した施設を探す発掘です。磨崖仏は岩壁などに彫られた仏像で、平安時代末から鎌倉時代に盛んに造られます。

どのように調査するのですか？

佐貫石仏は、平安時代に流行した密教の仏様である大日如来です。石仏の前に仏教の法要でどのような施設を作り、どのような物を用いたのかを、現在の祈りの行い方などを参考に調査します。仏像に向かって祈りを捧げた場所や、火を焚いて祈祷をした護摩壇などが主な施設と考えられます。その場所を確認して、彫られた仏像との関連を解き明かしていきます。

貴重な調査ですね。

このような岩に彫られた仏像に関連する発掘は、県内では宇都宮市の大谷磨崖仏が昭和 40 年に行われて以来です。この時も信仰に関連する遺品が出土しています。今回の調査でも確認できるか、期待しています。

そのような信仰は、この地域の特徴なのですか。

日光連山は密教の影響でできた山岳信仰の霊場として有名です。佐貫石仏が山岳信仰とも関連するのか、明らかにする手立てになればと思っています。

津野さん、ありがとうございました。

佐貫石仏「大日如来」の顔部分

※まいぶん＝埋蔵文化財の省略語「埋文」

埋蔵文化財センター普及事業の紹介 Part２

宇都宮市立南図書館で展示を行いました！

当センターでは、展示施設以外に公民館や図書館など、様々な場所で展示を行っています。

今回は、去る平成 28 年 10 月５日（水）～11 月 21 日（月）まで行った宇都宮市立南図書館での展示を紹介します。

宇都宮市立南図書館は、周辺の宇都宮市雀宮（すずめのみや）地区や横川地区の特色を生かした様々な活動を行っています。この地区は遺跡の宝庫で、インターパーク地区など、多くの発掘調査例があります。今回は、江戸時代の「雀宮宿跡（すずめのみやしゅくあと）」をテーマに、平成 26 年度の調査で出土した陶磁器を中心に展示しました。

また、関連行事として、11 月 13 日（日）には、センター職員による歴史講座が開催され、当日は 55 名が参加しました。

「雀宮宿跡展」展示の様子

平成28年度　栃木県内の埋蔵文化財イベント一覧（1月～3月）

※予定が変更になる場合がありますので、詳細は各イベントの主催者にお問い合わせください。

No.	機関名	事業名	事業内容	開催日	時間	会場	問い合わせ先	
							担当部署名	電話番号
1	埋蔵文化財センター	バックヤードツアー	施設見学及び収蔵庫での出土品の観察	開館日毎日2回	午前の部：10時30分から 午後の部：14時から	栃木県埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター普及資料課	0285（43）1971
2		勾玉づくり	勾玉づくり体験	日曜日	開館時間：午前9時30分～午後4時30分 （受付は午後3時まで）	栃木県埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター普及資料課	0285（43）1971
3	栃木県立博物館	テーマ展「古墳時代が始まるころ」	3･4世紀の人々の移動と交流について展示・解説する	1月7日（土）～4月2日（日）	開館時間：午前9時30分～午後5時 （入館は午後4時30分まで）	栃木県立博物館	教育広報課	028（634）1312
4		テーマ展「古墳時代が始まるころ」展示解説	テーマ展について担当学芸員がわかりやすく解説する	2月12日（日）	午後2時～3時	栃木県立博物館	教育広報課	028（634）1312
5		学芸員とっておき講座「古墳時代が始まるころ」	今から約1,500年前の人々の移動や交流を考古資料を用いて紹介する	2月19日（日）	午後1時30分～3時	栃木県立博物館	教育広報課	028（634）1312
6	宇都宮市	企画展（仮）「下野国における仏教の普及を考える」	本県における古代の仏教の始まり等について展示・解説する	2～3月	開館時間：午前9時～午後5時	とびやま歴史体験館	宇都宮市教育委員会文化課文化財保護G	028（632）2766
7		2016新資料速報展	平成27年度に宇都宮市内で調査された遺跡等を展示・解説する	11月26日（土）～1月31日（火）	開館時間：午前9時～午後7時	宇都宮城址公園清明館	宇都宮市教育委員会文化課文化財保護G	028（632）2766
8	小山市	講演会「陶磁器から見る中世の地域間交流」	講師：浅野晴樹（埼玉県嵐山史跡の博物館　学芸担当） 定員：80名（先着順）	1月15日（日）	午後2時～3時40分	小山市中央公民館視聴覚室	小山市役所総合政策部文化振興課	0285（22）9668
9		講演会「出土遺物と城郭から見る中世小山氏の威容」	講師：秋山隆雄（小山市教育委員会生涯学習課学芸員） 定員：40名（先着順）	2月4日（土）	午前10時～午後4時	午前：小山市立博物館 午後：祇園城跡	小山市役所総合政策部文化振興課	0285（22）9668
10	大田原市 那珂川町	巡回展「栃木の遺跡」	平成27年度に県内で発掘調査した出土品を展示解説する「発掘調査速報展	1月7日（土）～4月2日（日）	1　午前9時～午後5時 2　午前9時30分～午後5時 （入館は午後4時30分まで）	1 大田原市 なす風土記の丘湯津上資料館 2 那珂川町なす風土記の丘資料館	那珂川町なす風土記の丘資料館	0287（96）3366
11		巡回展　展示解説	展示解説	2月11日（土） 3月　4日（土）	各回とも午後1時30分から	那珂川町なす風土記の丘資料館	那珂川町なす風土記の丘資料館	0287（96）3366
12	下野市	定期歴史講座	しもつけ風土記の丘資料館周辺の文化財について、担当者等による解説を行う	1月22日（日）	午後1時30分～3時30分	しもつけ風土記の丘資料館	しもつけ風土記の丘資料館	0285（44）5049
13		下野薬師寺跡史跡まつり	下野薬師寺跡を活用したイベント	3月上旬	午前9時30分～午後1時	下野薬師寺跡 下野薬師寺歴史館	下野薬師寺歴史館	0285（47）3121
14	上三川町	文化財普及啓発事業	役場町民ホールにて町内の遺跡から出土した遺物を展示	通年	午前8時30分～午後5時15分	上三川町役場町民ホール	上三川町教育委員会生涯学習課生涯学習係	0285（56）9159
15	市貝町	アンギン編み体験	麻ひもを使い、コースターを作ります	2月5日(日)	午後1時30分～午後3時	市貝町立図書館2階企画研修室	市貝町教育委員会生涯学習課文化担当	0285（68）0020
16	壬生町	資料館企画展	鳥居元忠	2月 4日（土）～3月19日（日）	午前9時～午後5時 （火曜日は午後1時～5時）	壬生町歴史民俗資料館	壬生町教育委員会生涯学習課学芸係	0282（82）8544
17		企画展講演会	鳥居元忠関連シンポジウム	2月25日(土)	未定	壬生町中央公民館	壬生町教育委員会生涯学習課学芸係	0282（82）8544
18		大学連携シンポジウム 茨城大学人文学部地域史シンポジウム	大学と市合同シンポジウム「北関東の豪族たち－前方後円墳の終焉と激動の7世紀－」	1月28日(土)	午前12時30分～午後5時 （車塚古墳見学会午前10時から）	壬生町城址公園ホール （壬生町中央公民館）	壬生町教育委員会生涯学習課文化財係	0282（82）8544
19	那珂川町	遺跡報告会	発掘された遺跡について解説する	2月18日(土)	午後 1 時～ 3 時 30 分	那珂川町なす風土記の丘資料館	那珂川町なす風土記の丘資料館	0287（96）3366
20		なす風土記講座	那須の歴史について解説する	5月～2月の全8回	午後1時30分～3時 ※第5回は午前10時、第8回は午後1時から	那珂川町なす風土記の丘資料館	那珂川町なす風土記の丘資料館	0287（96）3366
21		土器づくり	土器づくりを行う	成形　1月28日（土） 焼成　3月11日（土）	成形　午前9時30分～12時 焼成　午前9時30分～午後3時	那珂川町なす風土記の丘資料館	那珂川町なす風土記の丘資料館	0287（96）3366

埋蔵文化財センターの見学・体験学習・職場体験等のお申し込みは、
ホームページ　http://www.maibun.or.jp　をご覧のうえ普及資料課まで
月～金　TEL 0285-43-1971（直通）　日曜日　0285-44-8441（代表）